

川崎重工業(株)航空宇宙システムカンパニー、岐阜工場で開催

2025年度第3回AMPI先進工場見学会を3月6日に開催しました。今回は航空機製造工場の中でも世界有数の生産性を誇る川崎重工業株式会社 岐阜工場（岐阜県各務原市）を見学させていただきました。また、「現場改善のヒントを持ち帰れる」をテーマに、同社で推し進めるKPS（Kawasaki Production System）の概要について講演会を開催していただきました。

工場紹介

同社の岐阜工場は、1922年に開設され、旧川崎航空機工業(株)時代を経て今日に至るまで、航空機、誘導機器、宇宙関連製品などの研究・開発、製造・修理を行う、航空機、宇宙機器の総合工場です。防衛省向け航空機やボーイング社向け分担製造品、官公庁/民間向けヘリコプタ、対戦車/対上陸用舟艇等の誘導弾、ロケットフェアリング、小型衛星などの開発・製造を行っています。



講演会「現場改善のヒントを持ち帰れる」

見学の前に、同社の犬飼特別主席から、同社が長年にわたり培ってきたKPS(Kawasaki Production System)について、ご講演いただきました。同社は1977年にトヨタ生産方式(TPS)を学び、バイクや油圧機器の量産ラインへの導入し、独自に発展させてきました。さらに2004年からは、航空機をはじめとする非量産品の生産現場にも適用範囲を広げ、海外工場へも展開、同社のものづくりを支える重要な基盤です。

講演では、KPS思想の2本柱であるJIT(Just in Time)と自動化(人偏のついた自動化)を中心に、丁寧にご解説いただきました。また、人ともののフル活用を実現するための標準化と異常管理の重要性、そして個々の作業者の進捗や課題が見える化する個人別生産管理板についても、具体的な事例を交えながらご紹介いただきました。講演後の質疑応答では、「熟練工をどうやって説得したか?」といった、現場の本音の質問をはじめ、多くの参加者から活発な質問がありました。

工場見学

工場見学では、3グループに分かれて、C-2(大型輸送機)組立、P-1(対潜哨戒機)/C-2修理、板金、機械加工、表面処理の各職場を見せていただきました。特にP-1、C-2の組立修理工場は屋根高さ30mを四隅の柱だけで支える巨大工場であり圧巻でした。板金職場ではシートストレッチャという機体や翼の曲面部材を成形する設備、機械職場ではFMS(Flexible Manufacturing System)を利用した大型加工機を見学できました。見学案内は、専門のスタッフがおられ、分かりやすく説明されたのが印象的でした。

参加者の声

- ここまで大きな工場を見たことがなかったので良い経験になりました。また犬飼さんの講演も非常に参考になりました。
- 飛行機の組立が見られるなんてびっくりです！本当に貴重な機会を頂きました。
- 個別生産計画に基づいた生産管理も参考になりました。

